

〔様式3〕

## 指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立王子第五小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	平仮名の読み書きはほとんどの児童ができていますが、拗音・促音・長音や、「は」「へ」「を」の使い方を誤る児童が数名いる。また、文を書くときに句読点を抜かしてしまう児童が多数いる。鉛筆の持ち方や学習用具が整っていない児童もいるため、繰り返しの確認や指導が必要である。	文章を書く指導を多く取り入れ、拗音・促音・長音や「は」「へ」「を」の使い方を定着させていく。また、教科書の文を視写する時間を増やすことで、文の書き方や言葉のきまり等を身に付けさせる。週に1度図書室へ行ったり読み聞かせを行ったりすることで、本を読む楽しさを味わわせるとともに、語彙を増やす機会を設ける。	授業中には一斉音読を、家庭学習では音読練習を継続して行い、文の構成や正しい言葉のきまり等を身に付けさせる。また、日記や行事作文等で書いた文章を互いに読み合う活動を行い、文を書く力や言葉のきまりを身に付けさせるとともに、自分の思いや考えを表現する力を高めていく。
2年	「おくりものについてはなしあう」「文しょうをかく」の項目が、特に正答率が低い。「はなしあう」についても、話し手が知らせたいことを「聞くこと」よりも経験したことに基づいて「書くこと（記述）」が低く、自分の思いや考えが明確になるように文章を書くことに対して課題が見られる。	「書くこと」では、伝えたいことをメモに書き出し、簡単な構成を考えて書く練習を積み上げることで、自分の思いや考えが明確に伝わるように指導していく。	国語の学習だけではなく、生活科やその他の教科でも伝えたい内容のまとまりを意識して文章を書く学習を行う。また、日記を取り入れることで児童が書くことに対する抵抗感をなくしていく。
3年	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題をもつ児童が一定数いる。また、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の写り変わり結び付けて具体的に想像することに課題が見られる。	登場人物の気持ちが分かる言葉を見付けさせ、それを共有させてから、そのときの気持ちを考えさせる。また、場所や出来事に気を付けて場面分けをさせ、出来事とそのときの登場人物の気持ちについて考えさせる。	教材文の読み間違いから出た疑問ならば、どうしてそう思ったのか理由を確認していくことで、理解の材料とする。教材文を読んでも答えがみつけれそうにない問いは、共有したうえで、発展課題として取り組ませる。
4年	漢字を読んだり書いたりすることや、ローマ字を読むことに関する問題への正答率が特に低くなっている。また、記述問題に対して無解答の児童も多く、文章の構成を考えたり自分の考えを明確にしてまとめ、文章に書き表すことに対して課題が見られる。	漢字やローマ字の読み書き等については、反復練習の時間を確保して小テストを実施したり、文章を書く際は既習の漢字を確実に使うことを指導したりしていく。また文章を書くことに関しては自分の考えを文章に表してから発表させる等して書くことへのハードルを下げるようにする。	漢字やローマ字の読み書きについては、朝学習や家庭学習でも意識的に取り組ませ、より確実な定着を図っていく。文章を書くことに関しては他教科でも学習のまとめを自分で書くことができるようにして、自分の考えを文章化する練習を行っていく。
5年	全体的に目標値、区の平均正答率を上回っており、学習内容が定着している児童が多い。ただ、「物語の内容を読み取る」の項目では、区の平均より4ポイントも下がっていた。登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。	登場人物の気持ちが分かる言葉を見付けさせ、それを共有させてから、そのときの気持ちを考えさせる。また、場所や出来事に気を付けて場面分けをさせ、出来事とそのときの登場人物の気持ちについて考えさせる。	読書活動のより一層の充実を図る。更に友達との交流では、読み合うだけでなく読んだ文章について考えたことを相手に文章や言葉で伝えられるようにする。
6年	全体的に目標値を上回っており、既習事項は概ね定着している。しかし、設問別に見ると、敬語の正しい使い方については半数以上の誤答が見られたので、繰り返し指導を行い定着させる必要がある。また、文章を書く問題も誤答が多く、目的や意図に応じた文章を書くことに課題が見られる。	敬語の使い方など言葉の学習は、小テストやプリントなどの短時間で取り組める教材を用意し、繰り返し学習して定着を図る。また、文章を書く活動では、例文を提示して完成形のイメージをもたせたり、文章構成を明確にし、「事実」や「意見」を区別するように指導をしたりする。	NIE活動を通して、新聞から読み取ったことを短い文で表現する活動を行っていく。書く力を高めるために、書いた文章を友達と読み合い、アドバイスを伝え合う活動を取り入れる。交流の際には、具体的なアドバイスが伝えられるように読ませ、良い点は自分の文章にも生かすように助言する。

〔様式3〕

## 指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立王子第五小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	現状においては、資料の読み取り方等基本的な学習の仕方を概ね習得できるようになってきている。今後、自分なりの見方・考え方をもてるように視野を広げられる指導方法を考えていきたい。	地域についての興味関心が強く、楽しみながら学習することができている。より身近な事象から学習することで自ら学ぼうとする力を高めていく。	地域学習でもある内容が多いため、家庭との連携で課題に取り組めるよう地域や家庭に発信していく。また、資料を読み取る能力がより身に着くように丁寧に学習を進めていく。
4年	グラフや写真、イラスト等といった資料から疑問点を見つけ出して課題を考え、課題解決に向けて学習を進めるという学習の進め方は身に付いてきている。児童が興味をもち、自分事として課題を捉えられるような資料提示を工夫していく。	学習内容を自分事として感じられるような導入の工夫をしていく。資料は写真やグラフだけでなく可能な限り実物などを用意し、学習への意欲を高めるようにする。読み取ったことを根拠に考えをまとめる時間を十分に確保するとともに、交流を通して多くの意見に触れさせていく。	新聞等を活用し、学習したことが自分の身近な生活とつながっていることが実感できるようにする。また、外部講師を招致して出前授業を計画していく。学習内容をさらに発展、探求していけるよう、司書教諭と連携して関連図書を用意していく。
5年	全体的に目標値、区の平均正答率を上回っているが、近似値である。特に、「都道府県の様子」「ごみの処理と利用」「先人の働き」の項目では、区の平均よりも下がっていた。また、資料から判断する問題では、無回答が一定数いる。資料から判断する力を高めていく指導が必要である。	児童の身近にある地域教材の資料提示をしていく。資料を読み取る活動では、自分の考えを表現する時間を十分に確保し、なぜそのように考えたのか理由を説明させる場を設け、資料から読み取れる情報を共有することで資料活用の技能を高めていく。	資料を読み取る力が未熟な児童へは個別支援をする。資料を読み取る力と共に社会と結びつけて考える力を付けるために調べ学習を積極的に取り入れていく。児童が興味・関心をもって学び、自分の考えがもてるような学習計画を立てる。
6年	全体的に目標値を上回っているが、「日本の農業」「自然環境と国民生活」については区の平均正答率を下回る結果となった。内容により、社会科用語などの定着が不十分であることが分かる。また、資料の読み取りは概ねできているが、読み取ったことをもとに考える問題には課題がある。	用語は単なる暗記にせず、どういった意味があるのかなどの具体的な例を示しながら丁寧に指導を行い、社会的事象に対する知識を定着させる。また、授業内容に合った資料を提示し、そこから読み取った事実をもとに、学習課題に対する自分の考えをまとめる活動を積極的に取り入れる。	授業で扱う資料は、書籍、インターネット、動画など様々な形態で提示し、児童が意欲的に調べ学習を進められるようにする。また、外部講師の招致を行って実体験を聞いたり、社会科見学や出前授業を計画して本物を見たりすることで、学習内容を身近に感じさせる工夫をする。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立王子第五小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	数の概念や10までのたし算・ひき算は、概ね理解ができている。しかし、10の合成・分解の理解が難しい児童や、指を使って計算し、計算に時間を要する児童が数名いる。また、文章問題では立式につまずき、答えを導き出せない児童や、答えの単位を書き忘れてしまう児童がいる。	授業の始めに計算カードを使ったり、きたコンを使ったりして、数学的な活動を充実させる。文章問題では、文章内の数字やキーワードを見つけて線を引くことを習慣化させ、問題文を読み取る力や場面を想像する力を身に付けさせる。また、ブロック操作や図、身体の動きを使ってたし算とひき算を表現することを通して、たし算とひき算の意味を理解することができるようにする。	家庭と連携し、計算カードやドリルを用いて反復練習を行う。個別指導が必要な児童に対しては、学級経営支援員や非常勤講師と連携を図り、具体物等を効果的に使用しながら理解を促していく。
2年	「図形」の項目が、他の項目に比べて正答率が低くなっている。また、文章を読んで必要な事柄を読み取り、立式して答えを求める問題では誤答が多く、無解答の児童もいた。必要な情報を正しく読み取り、最後まで粘り強く考えることに対して課題が見られる。	図形を構成する面の数や形についての理解が十分ではないことから、授業ではより具体物の操作を取り入れ、一人一人が実際に形に触れながら学習できるような環境を整えていく。文章題では聞かれていること、分かっていることに下線を引いてそれぞれを区別し、キーワードとなる言葉を意識させるようにしていく。	図形の学習は、具体物の操作の時間を十分に保証し、児童の理解につなげていく。発展として紙面の形から面の数や大きさの組み合わせを考えさせていく。文章題では、問われていることをはっきりとさせることを普通の授業からくり返すようにし、発展では教科書の考えてみようの問題に多く取り組ませるようにする。
3年	図形の構成要素に基づいた概念形成に課題がある。直線や面の形、直角といった図形を構成する要素に着目させ図形を捉える見方・考え方を育成する。	辺の長さの相等や角の大きさの相等に着目し図形を捉えられるようにする。図形の構成の仕方を考えさせる学習では、図形の約束に基づいて論理的に構成させる。	図形を構成する要素に着目し正三角形や二等辺三角形、円や球などを見いだすことを通して、図形のもつ性質が日常生活でどのように役立てられているかを考察させる。既習内容を日常生活に生かす学習が補充・発展となると考える。
4年	全体的に目標値を上回り、既習内容は概ね定着している。しかし、「わり算」のあまりの処理に関する設問は目標値を下回り、観点別に見ても「思考・判断・表現」がやや低い。計算方法は理解しているが、問題場面の把握に課題が見られる。	問題場面を正しく把握させるため、具体物や図を用いながら指導を行う。特に、「わり算」の学習では、商とあまりの意味を確認し、あまりの処理が正しくできるように指導していく。自力解決の時間には、式や言葉、図などを用いて自分の考えを説明させるとともに、友達と交流させることで思考力・表現力の育成を図る。	少人数担当教員と連携し、児童の理解度に合った教材の工夫をしていく。自分の考えを交流する場面では、ひらめきノートを活用し、児童同士の気付きや学びが深まるようにする。また、基礎的な計算について朝学習や家庭学習でも取り組ませ、より確実な定着を
5年	全体的に既習内容はよく定着している。引き続き、基礎基本の問題に繰り返し取り組み、確実な定着を図る。また、活用力を高めるような発問や問題を学習の中で取り入れる授業を意図的に行っていく。	授業のノートや単元末テストから、児童一人一人のつまずきを把握し、丁寧に指導していく。個人差があるため、少人数指導を生かして個々に合った指導を繰り返す。記述式の問題や応用問題に取り組む時間を確保し、活用力を伸ばしていく。	家庭学習を継続して、計算練習をしていく。授業の最後には、振り返り(学びの手ごたえ)を書き、学んだことを多面的に振り返り、次の指導へつなげられるようにする。個人のレベルに合わせたプリントなども用意し、より多くの問題をこなせるようにする。
6年	既習内容は全体的によく定着している。しかし、解答形式が記述となっている設問の正答率が50%以下と他の問題に比べ低いことから、自分の考えを表現する時間をより充実させていく。具体的には、考え方をノートに書く。少人数グループや全体に向けて自分の考えを説明する。といった場面を多くつくるようにしていく。	王五小の特徴でもある「ひらめきノート」を活用し、児童の学習状況を把握する。自立解決や協働を大事に授業を行い、児童の思考力、表現力を伸ばしていく。振り返りでは、算数の研究を行っていた際のテーマでもある「自己調整」を生かし、その日の授業を振り返ることで次時につなげていく。	単元の終末では、単元を通して大切にしたい見方・考え方を再度共有し、補充問題や発展問題に取り組ませ、数学的な見方、考え方を定着させる。当該学年以外の課題については、eライブラリなどを利用して復習する機会をつくる。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立王子第五小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	共通点や差異点を見い出しながら観察を行ったり、生活経験から考えて予想を立てて実験を行ったりするなど、理科の学習に対する関心・意欲が高い児童が多い。何のために実験を行っているのかの理解や、結果から得られたことをもとに考察したり、表現したりする力は高めていく必要がある。	児童の中から問題を見出すことができるよう、単元の最初の課題の提示方法を工夫する。また、見出した問題を解決させるための実験方法について話し合う時間を設け、実験をする意義を理解した上で授業を進めていく。	理科で学習したことを日常生活と関連付けて考えたり、より興味の幅を広げたり学習内容の理解を深めたりするために、司書の先生と連携して、単元にあった読み物を準備してもらい、読める環境を整える。
4年	実験結果から、性質を見付け出す力に課題が見られる。課題意識をもたせることを大切に、何のために実験を行っているのかを常に意識させる。また、実験結果を整理したり、それらを関連付けたりして、考えを深めるさせる活動を充実させていく必要がある。	なぜその実験や観察をするのか目的を理解して行うことができるように、問題解決のための視点を明確にさせる。実験結果から考察する際は問題に立ち返って考えることを助言し、自分で考える時間や友達と話し合う時間を十分に設定する。	実際に実験や観察を行うことを主とするが、その補助としてICT機器の活用や関連図書を用意して自主的に調べる活動ができるようにする。また、学習した内容を日常生活の中で想起する場面を意図的に設定し、学習したことが日常生活と結び付いていることを児童に実感させるようにする。
5年	全体的に既習内容はよく定着している。しかし、記述の問題では、無回答が一定数いる。記述式の問題に課題が見受けられた。	予想・実験や観察の見通し・結果・考察・結論という学習の流れの中で、「考察」を重点的に指導し、実験の結果から分かることを自分の言葉でまとめさせる時間を十分に確保できるようにしていく。	理科で学習したことを日常生活と関連付けて考えていくようにして、さらに興味や関心を高めていく。また、教科書に記載されている実験内容だけではなく、学習を通してさらにどのようなことを調べてみたいのか、児童の意見が出るように働きかけを行う。
6年	教科の平均正答率は目標値を上回ったが、内容別に見ると「人のたんじょう」「電流のはたらき」の項目以外は80%以下の正答率であった。基礎的内容の定着が不十分であることが考えられる。身近な生活の中に学習内容を想起できる場面を見つけ、定着させたい。	身近な自然や科学的事象に興味・関心をもてるように、授業の導入を工夫する。実験や観察を通して何を調べるのかを明確にして結果を予想させることで、児童に問題意識をもたせる。また、学んだことを身近な生活と結び付けて考えられるように、授業の振り返り時間を十分に確保する。	実験や観察の様子は、必要に応じてタブレットを活用して写真や動画でも記録し、見返すことができるようにする。教科書通りの実験内容のみならず、児童が考えを広げて意欲的に探求していけるように、理科支援員や図書館司書と連携し、補助資料を用意する。